

JET 体験論文集

2022-2023



国際交流員 CIRs

Emilie Lamont-Cardinal.....	2
Guimaraes.....	4
Gavin Wurm.....	7

スポーツ国際交流員 SEA

Mitchel Jamie Thorne.....	9
---------------------------	---

県立学校 Prefectural ALTs

Joseph Kosciusko Tritschler.....	11
Kyle O' Connor	12
Marie-Michelle Fortier.....	13
Rosanna Nowak	14
Sophie West.....	15

東近江市 Higashiomi City ALTs

Christian De Dios Libunao.....	16
.....	17
Czarah Jane J. Miranda.....	18
Dominique DiGiacomo.....	19
Jack Long.....	20
Raisa Dominique G. Perez.....	21
Rhianna R Velasque.....	22
Vincent Francis Favata.....	23

甲賀市 Koka City ALTs

Cameron Stuart Hart.....	24
Cheyenne Price.....	25
Lorin Davis.....	26
.....	27
Shelby Keiko Davis.....	28
Sophie Nevel.....	29

米原市 Maibara City ALTs

Anna Jones.....	30
Devante Smith.....	31
Joshi Philips	32
Kaleb Thompson.....	33
.....	34

高島市 Takashima City ALTs

.....	35
Na-kaydia Webb	36

<p>～ALTのエッセイの主題番号の説明～</p>

- | |
|--|
| <p>1 授業実践について</p> <p>2 日本の文化について</p> <p>3 滋賀での生活について</p> |
|--|

三面六臂

エミリー ラモン・カルディナル
滋賀県総合企画部 国際課 勤務
カナダ ケベック州出身
6年目国際交流員



最初の言葉

私は4回もJETプログラムに応募し、ようやく2017年に来日することが出来ました。中学校から日本に興味を持って、ずっと日本語を勉強し、2回も日本に住んだことがありました。出世していた私は何故急に日本に戻りたいの？と疑う人もいたでしょう。単に日本に恩返ししたかった。それでも、来日した時、2年間までいるでしょうと思いました。まさかの6年目になった今、ちょっとは恩返しできましたのかな？確かなのは散々苦労したときもあって、嬉しい思い出を一生分作れましたことです。この最後の一年も仕事の面でも、プライベートの面でも頑張りました！

翻訳・ネイティブチェック・通訳・アテンド

コロナの影響が完全になくなったかのように翻訳とチェックの仕事が戻りつつあります。相変わらず締め切りまで返すように完成しています。そしてコロナ中と違って、今年は通訳の機会もいくつかありました。秋に駐日外交団による地方視察ツアーが滋賀県でようやく行いました。上司や同僚と共に13か国から合計15名の参加者の世話をし、通訳して、滋賀県を回って、有意義な2日間を過ごしました。成功にさせて光栄です。





出前講座

6年目中はおよそ30回出前講座を実施しました。大津市から米原まで、時に信楽の山奥に行き参りました。学年が幼稚園から大学まであって、養護学校や消防学校にも戻りました。基本的な国の紹介が多いですが、今年は特別に健康医療機関や大学などについても講演しました。

観光ブログ

最後の一年になるため、まだ書いていないブログ記事を全部書かないといけません。4月から投稿を再開し、コロナ中に行った取材の記事を6つアップしています。そのうえ、2023年2月から新しい取材で、観音正寺、長命寺と比叡山の頂上と横川エリアへ行ってまいりました。今まで滋賀県の色んなところを見て、誠に感謝しています。



取りまとめアドバイザー

今年もまた新規JET参加者の「サバイバルオリエンテーション」が個人別になったので、夏から秋にかけて5回くらい実施しました。他の参加者サポートなどが今まで通りでした。



その他

スピーチコンテストのうえ、自動翻訳アプリの講座や次世代人材育成連続セミナーに参加しました。

最後の言葉

本当に最後になりますが、6年間、人に会って、経験して、一期一会を尽くすように頑張りました。皆様も、人生を最期かのように楽しんでください。

最後の 1 年間

ギマランイス

滋賀県国際課 勤務

ブラジル連邦共和国 リオデジャネイロ州 出身

5 年目国際交流員



はじめに

私が日本に来たのは 2019 年の 4 月ですので、あれからは既に 4 年が経ち、滋賀県国際交流員としては今年度が最後になります。

思えば、着任してから自分の日本語を大きく伸ばせましたし、いろんな人とも出会い、記憶に残るお仕事にもたくさん携わることができました。そんな自分は 4 月来日の JET ですので、エッセイを書くのはこれが最後になります。

今回も拙文ながら、昨年度からの出来事などを振り返ってみようと思います。

ブラジル国民的漫画家の来県

「モニカ・アンド・フレンズ」をはじめとする、ブラジル人に愛されている数多くの作品を生み出した、マウリシオ・デ・ソウザさん。そんなマウリシオさんとはあるプロジェクトのために来県し、その際、滋賀県知事を表敬訪問されました。そこで、私は通訳を任されたのですが、二人の会話のお手伝いはもちろん、解散する前にちょっとだけ雑談をする機会にも恵まれました。

マウリシオさんは私が国際交流員になったばかりの 2019 年にも来られていて、JET1 年目、そして JET5 年目という、大切な節目にお会いすることができました。彼の描いた漫画を読みながら育った自分ですから、滋賀県でお会いできたのは大変嬉しいことでした。

文化講座の開催について

ここ数年では、定期的に、自分の言語であるポルトガル語を教えるための講座を開いてきました。講座と言っても、とてもものんびりしたもので、受講生の皆さんがブラジルの文化や

その言葉にちょっとだけ触れる機会を作るのが主な狙いでした。

それによって、色んな方に国のことを伝え、気に入ってもらえただけでも十分に素晴らしい収穫だと、私は思います。ですが、その上に、普段お会いすることがない方々とも交流ができ、教室の外側でも仲良くすることができました。それもあってか、ポルトガル語講座は私にとって、JET プログラムの大切な思い出の一つになりました。

ところが、他の業務の関係で、昨年度はその開催が叶いませんでした。そこで、何もしないというのももったいないと思い、担当者と相談した結果、1 時間完結型の文化講座を開くことになりました。

それを全部で 2 回実施をしましたが、第一弾では「モニカ・アンド・フレンズ」を紹介しました。モニカとその仲間たちの漫画のちょっとした展示や、公式ユーチューブのチャンネルに上がっているアニメの上映、この作品の歴史についてのお話など、楽しく、深く知ってもらえるように計画をしてみました。

そして、第二弾では食文化をテーマにしました。現地のおいしい食べ物や飲み物の写真を A3 の紙でお見せして、作り方やその材料の説明をしたり、ブラジルのパン屋さんやレストランが日本のお店とどう違うかなどについても話したりしました。

さらに、滋賀県にはブラジルのお菓子や食材を販売している専門店がいくつかありますが、上司のおかげで、そこで販売されている有名な炭酸飲料の試飲やちょっとしたスイーツの試食も可能になりました。

こうやって、ちょっとした発想で生まれた文化講座ですが、どれも本格的に、無事に開催することができましたので、とてもいい経験でした。

自発的に取り組んだ翻訳

昨年度は比較的それほど忙しくない時期があり、何か自分にできることはないかと考えていました。そこで、毎年県内の中学生の参考情報として配布される、とある資料に注目しました。その資料は生徒達にとって非常に重要なもので、各外国語にも翻訳されているのですが、既存のポルトガル語バージョンは問題が多く、とてもお薦めできないものになっていました。

それは全部で 51 ページという膨大な量でしたけど、担当者に許可をもらって、しっかりとノルマを決めた上で、数か月をかけて、ゼロから翻訳しなおすことにしました。

在宅勤務を活かして集中的に作業したり、他の仕事が溜まらないようにしたりと、大変と思った時期もありましたが、最終的には、子供のためになる大事な資料を翻訳することができたのがとても嬉しくて、達成感も大きかったです。

今後の取り組み

JET 参加者として今年度が最後になりますので、何か新しいことができないかと考えているところです。例えば、コロナ禍でできなかったような、地域の子供や大人が来れるような

イベントや、ブラジルの歴史についての講座など。

ところが、様々な複雑な要素があるので、それが実現可能かどうかは相談してみないと分かりません。ですが、大事な最後の一年ですので、色々と工夫をしていきたいです。

また、姉妹都市関係の業務や数多くの出前講座など、今後の予定も既にたくさん入っていますので、私はこれからも、与えられるお仕事を一つ一つ、丁寧にやっていきたいと思っています。

最後に

国際交流員として着任してから本当にたくさんのかを経験をしてきました。出前授業だけでも、幼稚園から大学まで、数多くの場面でお話をさせていただき、受講してくれた生徒さんは何千人もいます。

思えば、JET1年目の時に会った小学生たちも、今や中学生や高校生になり、高校生は社会人になっていることでしょう。

滋賀という場所も、今は自分にとっての第二の故郷になりました。近所の公園やパン屋さん、商店街のおいしい和菓子屋さんなど、好きな場所がたくさんあって、このままずっと住み続けたいという気持ちもあります。

今の時点では自分が来年どこにいて、何をしているかは正直、想像もつきません。ですが、JETプログラムの経験を活かして、きっとどこかで元気にやっていると思います。ちょっとだけ寂しい気持ちはありますが、新しい生活を楽しみにしながら、残りの任期も元気に頑張りたいと思います。

成長のきっかけ

ガビン・ワーム

滋賀県大津市 MICE 推進室 勤務

アメリカ テキサス州出身

1年目国際交流員



【大津に来るまで】

日本で日本語を使える仕事がしたい。大学三年生の時、専攻を日本語に変更すると共にそう決意しました。その後、大学の授業で JET プログラムの国際交流員の仕事について初めて知り、これは自分がやりたいことだと直感しました。国際交流員になることを目標に日本語を2年間猛勉強してから JET に応募し、大学を卒業して二日後に採用が決まりました。そして去年の10月に来日し、あっという間に8ヶ月が経ちました。現在、大津市役所で活動をしています。

【翻訳・通訳】

多くの国際交流員と同様に私の主な業務は翻訳と通訳です。翻訳の依頼は様々で、普段は大津市在住の外国人のための庁内の行政手続や観光施設の案内情報の英訳が主ですが、姉妹都市とのやり取りや市長の親書等の幅広い内容にも対応しています。仕事をしているときは、常に何らかの翻訳に取り組んでいます。

通訳は私にとって国際交流員の様々な業務の中で一番難しいです。これまで経験した通訳は主に市民のための通訳とイベント時の通訳の二つの種類があります。市民のための通訳は外国人が大津市に転入した時の住民登録や国保・年金の窓口でのサポート、子どもの保育園や幼稚園の入学説明会での対応等が一般的です。難しい仕事ではありますが、人の役に立つ、やり甲斐を感じる仕事でもあります。

イベント通訳は市民のための通訳に比べて年に数回しか機会はないのですが、その機会が来たら重要な役割を任されることが多いです。これまでは、挨拶やスピーチの逐次通訳、関係者の質疑応答や歓談等の通訳を行いました。



姉妹都市の訪問団と市長との表敬訪問通訳

【姉妹都市との交流】

大津市の国際交流員にとって姉妹都市との交流は大事な業務です。大津市は様々な都市と繋がっていて、アメリカ、ドイツ、スイス、中国、韓国にある合計5つの都市と姉妹友好都市の提携を結んでいます。コ

コロナ禍の影響で交流が困難な時期が数年間続いたのですが、水際対策の緩和等のおかげでようやく姉妹都市との対面交流を再開することができました。

今年の5月に、4年ぶりにドイツからの訪問団が天津市を訪れた際は、市の国際交流員として、訪問に関連する書類の翻訳、市内の観光施設の案内、市長との表敬訪問時の通訳などを任されました。

【国際文化理解教室】

国際文化理解教室は天津市の国際交流員が行う業務の中で、市民レベルでの異文化交流を促進することができる重要な仕事です。教室の目的は英語を教えるのではなく文化を教えることで、保育園から高校までに行って異文化交流の講座を行う事業です。最初の頃、子どもとの接し方がほぼわからなかった私は国際理解教室にどう臨めばいいのかを悩みましたが、経験を積むにつれて、もっと楽しめるようになりました。現在は主に幼稚園や保育園でプレゼンやクイズを通してアメリカの学校や休日等について教えています。



幼稚園での国際文化理解教室



フェイスブックの取材

【SNS/観光PR】

海外向けのSNS活動にも取り組んでいます。今年の1月より、市の英語版フェイスブック「Hello Otsu」を正式に再開しました。このアカウントはもともと私の前任者が始めた企画で、コロナ禍の影響もあって数年間投稿が止まっていたのですが、現在は月に1回のペースで市の観光施設などを紹介しています。

【終わりに】

この8ヶ月間、様々な経験ができて毎日が勉強の日々でした。これからも、もっと成長して一人前の国際交流員になれるように頑張りたいと思います。

ホッケーを通じた国際交流

Mitchel Jamie Thorne (スローン ミッチェル ジェミー)

滋賀県米原市 スポーツ推進課 勤務

ニュージーランド国 ホークベイ州 ネイピア出身

5年目 S E A (スポーツ国際交流員)

私は、平成30年(2018年)8月から5年間、米原市のS E A (スポーツ国際交流員)として勤務してきました。

米原市は、「ホッケーのまち」として知られており、フィールドホッケーの普及に力を入れています。今から44年前の昭和56(1981年)に開催された「びわこ国体」で、旧伊吹町がホッケーの開催地となり、ホッケーが地域スポーツとして定着しました。

2020年東京オリンピックが決定した際に、米原市がニュージーランドのホストタウンとなったことがきっかけで、私は、米原市でS E Aとして採用され、ホッケーを通じた国際交流を行うことになりました。

日本語を覚えるところからはじまり、当初はとまどうこともありましたが、市の担当職員の温かい支援を受けることもでき、学校の部活動など子どもたちと触れ合ったり、地元の男子ホッケークラブチームBlueSticks SHIGA(ブルースティックス滋賀)の一員として試合に出場したりするうちに、いつしか「ミッチー」という愛称で呼ばれるようになり、徐々に地域に溶け込んでいくことができました。

2020年に世界中に拡大した新型コロナウイルス感染症によって、残念ながら、ホストタウン事業は中止となりましたが、2025年に滋賀県で開催される国民スポーツ大会に向けて、中学校の部活動やホッケーの体験教室などに参加し、時には、ニュージーランドでの経験を活かしたトレーニングメニューを行うなど、ホッケーの楽しさを伝えながら、ホッケーの競技力向上にも努めています。

また、任用から3年目には、指導を主体的に取り組んでいることが評価され、リーダーも任されるようになり、指導している中学校を全国大会準優勝に導くことができました。

S E Aとしての5年間の任用期間が満了となり、この度、S E Aとしての役割を終えることとなりましたが、ご縁があって、引き続き、米原市が独自に設置しているM G T (米原市国際理解教育協力員)として採用いただけることとなりました。

令和7年(2025年)には、滋賀県で「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ」大会が開催され、再び米原市がホッケーの開催会場となり、スポーツに対する機運が最高潮に達します。

これまでS E Aとして培ってきた経験を活かし、今後は、英語教育の活動に力を入れながら、引き続き、ホッケーを通じた国際交流に貢献していきます。

特に、大会で活躍する選手や団体を育成するため、中学校だけでなく、市内の高等学校の部活動にも積極的に指導に出向き、年代を問わずホッケーの競技力向上に取り組んでいきたいと思っています。

また、地元男子ホッケークラブチーム BlueSticks SHIGA の一員として、国内最高峰のホッケーリーグの試合で活躍することで、子どもたちに夢や希望を与え、同時にスポーツをすることの素晴らしさを伝えながら、ホッケーのまち米原のスポーツ人口の拡大と、地域の国際化に貢献していきたいと考えています。



体育の授業に参加している SEA



滋賀ジュニアユースにおいて指導している SEA



地域イベントに参加している SEA

Japan is, to me,

standing among the cedar trees at a small shrine discovered while hiking,
the humid summer air languidly sliding between the branches
carrying the droning of the cicadas –
interrupted for a moment
by a grandpa and his *kei* truck on a nearby road
I can't quite see.



Or perhaps,

it is squatting in the shade of an alley vending machine, sweaty,
tethered to this place with cool drinks and a recycling bin,
and listening to the bustle of daily life –
elementary kids running home,
the whispering couple alone together in the small park,
the salaryman trying to politely end a call to continue rushing onward.

Life in Japan is moments of stillness and life fit inside each other.

日本暮らし

滋賀県庁教育委員会事務局高校教育課 コーシユースコ トリツチュラー ジョセフ

日本は、僕にとって、

周りの杉の中に、ハイキングしながら見つけ出した祠のそばに立って、
セミのミーンミーンを運んでいる、蒸し暑い風が枝の間に通りのんびりにふってきて、
一瞬、ほとんど見える道を通るおじさんの軽トラックで割り込まれたものだ。

あるいは、

裏通りの自販機の影に、汗だくで、
冷たいドリンクもリサイクル箱がある場所から離れられなくて、
小学生たちが帰り走る

小公園で一緒にひとりの囁くカップル

先までチャージ続ける為、丁寧に電話を終えようとしているサラリーマン
のような人々の日常騒音を聞き中、しゃがんでいるものだ

日本暮らしは、ちん静の瞬間も生活の瞬間も、お互いに収まり合っているものだ。

A Welcome Adaptation

Topic

1

Maibara Senior High School: Kyle O'Connor

It's now my fifth time teaching first year high school students. Every year I have had to slightly adapt to the new students and learn their strengths, weaknesses, likes, and dislikes. Funnily enough, this year, there is one adaptation I haven't had to deal with since my first year here. It's something I took for granted at the time and expected to be constant. Something so small yet so important. Something Japanese people are now known for – masks. This school year, teachers and students alike are free to remove masks. At first even I, an American, was hesitant to remove it in the classroom. But in the spirit of adapting to the new year, I decided to take it off during my classes, and I'm so happy I did. The past three years I have been thankful for the masks ability to prevent the spread of coronavirus, but it has also prevented me, an ALT, from doing my best. We always say our most important job as ALTs is to provide cultural exchange. Well with my mask on, I've felt it's been much harder to fully communicate and express myself. And if that wasn't enough – did I mention how insanely hot it gets in the summer! Now, without the mask I can freely use facial expressions like giving a genuine smile of encouragement. I can use my mouth movement in English pronunciation to help students listen more easily. I no longer feel like it's wrong to speak closely with students, and I don't feel like I'm hiding my face or keeping a secret. It opens communication and lets students know not to be afraid of speaking to me, and classes genuinely feel happier. So, with my last year on JET soon to be starting, I'm excited for the new year and all it has to offer me.



歓迎すべき変化

滋賀県立米原高等学校：カイル・オコンナー

高校1年生を教えて5年目になる。毎年のように新入生の得意不得意、好き嫌いを知り、僕も彼らに適応せねばならない。今年には日本に来てから初めての思いがけない変化があった。ある時には当たり前だと、ずっと続くと思っていたものだ。小さいけれど重要で、日本人はそれで有名だ。マスクである。今年度、先生方も生徒たちもマスクを外してよいようになった。最初はアメリカ人である僕ですら、教室で外すことをためらった。でも新年度に適応する精神で、授業中に外すことを決意した。そうしてよかったと思う。この3年間マスクが果たしたコロナウイルス感染症拡大防止には感謝しているが、僕たちALTが最善を尽くすことには支障があった。ALTの最も重要な役割は文化交流を提供することだと常々言ってきた。マスクをしていると、自分自身を表現して十分にコミュニケーションをとることがはるかに難しくなる。これでは理由として不十分だと言うなら、気が狂うぐらい暑い夏について思い出してもらおうといい。マスクが無い今、自由に、僕は生徒を励ますために心からの笑顔を浮かべることができる。口の動きを使って英語の発音を示し、生徒のリスニングを容易にしてあげることだってできる。生徒の近くで話すことを間違っていると感じることはないし、顔を隠して何かを秘密にしているような気持になることもない。コミュニケーションの機会が広がり、生徒が僕に戸惑わずに話しかけることが増えた。授業の雰囲気は本当に良くなった。JET最後の年度が始まろうとしている。新しい1年とそれがもたらしてくれるものに僕はワクワクしている。

翻訳 滋賀県立米原高等学校 教諭 北川美紀

Ready, Play, Grow!

Ishiyama High School: Marie-Michelle Fortier

Believe it or not, I came to Shiga six years ago. Although I haven't left yet, I can't help but already feel nostalgic somehow. It might be because I'm preparing for farewell speeches while gradually emptying up my soon-to-be former apartment.

In any case, my adventure with the JET Programme was an amazing one. I feel very fortunate and grateful to those who helped me along the way and made it possible. I came here as an ALT, but by experiencing new cultures and interacting with other people, I was able to learn and grow as person as well.



I will surely miss baking for the SDC Bake Sale, having BBQ at Omi-Maiko, going to local festivals, and organizing events for the Otsu Block such as going strawberry picking or celebrating Canada Day with poutine and fireworks! I will miss chatting with coworkers, talking about video games and anime with students, playing games and baking cookies with the ESS club, and enjoying the school cultural festivals. I had all those amazing experiences and wonderful moments that gave me memories that will last forever. Again, to my students, fellow teachers, and everyone else, thank you for all your support, advice, and friendship.

To be honest, I'm still uncertain of what is yet to come. I can't predict the future, but I can create it. As I'm entering "Act 3" of my life, new adventures are awaiting every step of the way. I will for sure continue to do my best and enjoy it to the fullest, and remember, when life gives you a 1, make it a 20!

位置について、体験、成長！

滋賀県立石山高等学校： マリ・ミシェル フォルチエ

滋賀県に来てもう6年が過ぎました、本当に信じられません。今も滋賀県にいるのに、すでに懐かしく感じています。それは、住んでいたアパートを片付けたり、お別れのスピーチの準備をしているからかもしれません。

私にとって、JET プログラムでの冒険は素晴らしいものでした。助けていただき、様々なことを教えて下さった方々には本当に感謝しています。ALTとしてここに来て以来、新しい文化を経験し、いろいろな人々と交流することで人としてとても成長することができました。

SDC ベイクセールでパンを焼いたり、近江舞子でバーベキューをしたり、地元のお祭りに行ったり、大津ブロックでイチゴ狩りに行ったり、カナダデーをプーティン(カナダの国民食)と花火で祝ったことはとても良い思い出です。また、同僚とおしゃべりしたり、生徒たちとゲームやアニメについて話したり、ESSクラブと一緒にゲームをしたりクッキーを焼いたり、学校の文化祭を楽しんだことが懐かしいです。さまざまな経験をし、その瞬間を過ごせたことは、一生の思い出になると思います。生徒さん、同僚の先生方、そしてサポートやアドバイスをいただいた方々、友情を育めたことに大変感謝いたします。

これからどうするかは未定ですが、私にとっては人生の「第3幕」が始まります、新たな冒険が待っています。ベストを尽くし、最高に楽しみたいと思います。皆さんに覚えておいてほしいことがあります。人生が1を与えるなら、それを20にすることを忘れないでください。

(翻訳 滋賀県立石山高等学校 マリ・ミシェル フォルチエ)

Did I do well?

Kusatsu Higashi High School: Rosanna Marie Nowak

A few weeks ago, my first-year high school students were tasked to write emails to an imaginary host family. In such emails, they had to include the following information:

How well you can speak English.

I was a little disappointed to find that everyone, barring a cheeky few, wrote "I can't speak English well", or words to the effect. Sure, perhaps they're being humble, but it did make me consider the vagueness of the words "good" or "well". What exactly does it mean to be good at English, or good at anything for that matter?

What I wish I had asked the students is: Are you comparatively good? Not to each other necessarily, but to your past selves, and to the "standard"? I'm certain the students can speak English well compared to their junior high schooler selves. In fact, for Japanese high school students, I think they're just fine! Comparison to the JTE or a native speaker like me has its benefits, it gives them a goal, but just because they're not at our level doesn't mean they're not good.

Now, what if the question was aimed at me: How well can you teach English as an ALT? After my four years on JET, I still give over-convoluted instructions to the students, my organisation skills are sub-par, but despite my flaws, can I still be good? I am the sole ALT at my schools and there is no "ALT proficiency test", therefore, I can't easily judge whether I meet the "good ALT" standard. So, another factor came to mind: my achievements. I have made a dozen lessons from scratch, taught them, and received positive feedback from JTEs and students alike. I think I'm good, right? To some extent of its meaning?



うまくできたかな…？

草津東高校：ロザンナ・マリー・ノワック

数週間前、私は高校 1 年生の生徒たちに架空のホストファミリーにメールを書くという課題を与えました。そのメールには次の情報を含める必要があると指示しました。

あなたが英語をどのくらい上手にしゃべれるか。

生意気な生徒を除いて、みんなが「英語はうまく話せません。」のような言葉を書いたので少しがっかりしました。確かに、謙虚に言っているのかもしれませんが、「上手い」とか「得意」という言葉の曖昧さを考えさせられました。英語が得意、あるいは何かが得意とは、具体的にはどういう意味なのでしょう？

生徒たちに尋ねればよかったのは、「あなたは比較的上手いですか？」ということです。必ずしもお互いに比べるのではなく、むしろ、過去の自分と、そして「標準」と？ 中学生の頃と比べれば、生徒たちはきっと上手に英語を話せていると思います。実際、日本の高校生ならきっとそうです！ JTE やネイティブスピーカーと比較することは、目標にするという意味では良いのですが私たちみたいに喋れないからといって、得意じゃないというわけではありません。

さて、もし私に「ALT として英語をどのくらい上手に教えられますか？」と聞かれたらどう答えればいいのでしょうか？ JET プログラムでの 4 年間を経た今でも、生徒たちに複雑すぎる指示を出しており、きちんと準備できていない時もあるなど様々な欠点はありますが、それでも上手いでしょうか？ ALT 能力テストがないし、学校で唯一の ALT なので「良い ALT」の基準がわかりません。その時、もう一つ頭に浮かんだことがあります。:私の業績です。これまでに何十ものレッスンをゼロから作成し、授業を行い、JTE と生徒の両方から肯定的なフィードバックを受け取りました。私は上手いと思います！ ある程度上手いですよね？？

(翻訳：本人)

Moriyama Junior and Senior High School: Sophie West

One thing I have always loved about any culture is storytelling. Fairy tales, legends, folktales - they have always interested me. Japan has many such stories, like *Momotaro*, *Princess Kaguya*, *Urashima Taro*, and so on. Since living in Shiga, I have discovered many new, local tales.



I would like to talk about my favourite story. This is a tragic love story about a young monk and a poor woman. The monk lived on an island off the shores of Lake Biwa, but he fell in love with a poor woman on the mainland. Wanting to test the strength of her love, he told the woman to row to the island every night for 100 nights in a small, round, wooden boat called a *tarai*. Each night he would wait on the beach with a lantern to help guide her. Dutifully, she did as he asked and rowed to meet him. For 99 days this continued, but on the 100th night, the monk began to wonder, 'How can an ordinary woman row all this way in a *tarai* for 100 nights? She must be a *yōkai*.' The thought terrified the monk and so he extinguished his lantern and fled. Without the lantern guiding her, the woman could not find the shore and tragically drowned in the cold, dark lake. The story goes that on windy nights you can still hear the woman rowing her boat towards her beloved monk.

I particularly like this story because many different variations can be found around Japan and, actually, around the world. That's why I love stories so much - they show that all cultures are intertwined in some ways.

母なる湖の民話

守山中学校・高等学校 ソフィー ウェスト

どんな文化でも、私が常に愛してやまないのは物語です。おとぎ話、伝説、民話—いつも私を楽しませてくれます。日本にはそういった物語がたくさんあります。「桃太郎」「かぐや姫」「浦島太郎」などなど。滋賀県に住んでからも今まで知らなかった地方民話にたくさん出会いました。

私の一番好きな物語を紹介しましょう。若い僧と貧しい娘の悲恋物語です。その僧は琵琶湖沖のある島で暮らしていましたが、本土の貧しい娘と恋に落ちました。その娘の愛を試そうと、僧は娘に「たらい」と呼ばれる丸い木の小舟を漕いで100夜毎日自分の島まで通ってくるように言いました。僧は毎晩、娘が迷わぬよう提灯に火をともして島の岸辺で待ちました。娘は律義に、僧の言った通りに船を漕いで彼に会いに来ました。そんなことが99日続いた後、いよいよ100日目という夜、僧はふと不思議に思いました。「どうしたら普通の娘が100夜も「たらい」なんかに乗ってこれだけの距離を漕いで来られるだろうか。あの娘は「妖怪」に違いない。」そう思うと僧は怖くなって提灯の火を消し逃げ出したのです。目印の提灯もなく、娘は島の岸辺を見つけることができずに、冷たく暗い湖の中で溺れて死んでしまいました。だから今も風の強い夜には、愛する僧のもとへとその娘が舟を漕ぐ音が聞こえるのだそうです。

この物語が特に好きなのは理由があります。日本中で、いえ実は世界中でこの話の別バージョンがたくさん見受けられるからです。だから物語は愛さずにはいられません—文化とはすべて何らかの形でつながり合っているものなのだと気づかせてくれるからです。

翻訳 滋賀県立守山中学校・高等学校 教諭 大橋希志代

The First Step to Becoming an ALT

Choo Junior High School: Christian De Dios Libunao

My first school year at Choo Junior High School made me realize that being a professional learner is the starting point for fully embracing the role of an ALT. Learning new things, deepening my cultural understanding, and reflecting on my daily experiences as a learner commenced my JET journey in Shiga.

Unexpectedly, I never thought of being an ALT as a job, but I did think it was a valuable learning opportunity. With the help of my JTEs, I was able to explore and experience many teaching styles through team teaching. It appeared that while I was assisting them in teaching English, they were guiding me toward the art of discovery. Likewise, observing various school events deepens my awareness of Japanese culture while simultaneously inspiring me to design more realistic English lessons. Moreover, reflecting on my own experiences as a Filipino English learner enables me to sympathize with my Japanese students. Knowing firsthand the difficulties they face motivates me to show my unwavering optimism and support for them.

Ultimately, being an ALT means being an **AMAZING LEARNER** and a **TEACHER** at the same time. An ALT who is striving to master the art of learning and teaching can assist Japanese students to do the same. I hope that as I end my first year in the program, the next chapter of my JET journey will bring more fun and exciting learning experiences.



ALTになるための第一歩

朝桜中学校： クリスチャン ディー ディーオース リブナオ

朝桜中学校で、私はALTとしての仕事を始めるにあたって、一人の学習者であることに気づきました。新しいことを学び、文化的理解を深め、学び続ける教師として、毎日の経験を振り返りながら、滋賀でのJETプログラムを始めました。

意外なことに、私はALTを仕事としてとらえたことはありませんでしたが、むしろ貴重な学習の機会であると思っていました。JTEと共に進むチームティーチングを通じて、多くの指導方法に触れ、経験することができました。私は、チームティーチングを通して、様々な貴重な発見をすることができました。また、様々な学校行事に参加することで、日本文化に触れることはもちろん、一人一人の生徒を知る貴重なきっかけとなりました。これらの経験は、私が英語の授業をデザインするための大切な要素となりました。さらに、フィリピン人の英語学習者としての私自身の経験は、日本の生徒たちが英語を学習する際に抱える困難さについて共感することができると感じました。私自身も英語学習者であることは、生徒たちに寄り添って、サポートをすることができると確信しています。

ALTであるということは、真の学習者であると同時に真の教師であると思います。学習と指導の技術を習得しようと努めている姿は、学びのよいモデルとして生徒たちを勇気づけられると信じています。プログラムの1年目を終え、JETプログラム2年目は、もっと楽しく、ワクワクするような体験ができることを願っています。

(翻訳[東近江市立朝桜中学校 服部 藍])

How Can You Dislike a Food You' ve Never Tasted? Higashiomi City Funaoka Junior High School:

Topic

2

During the five years I've worked and lived in Japan, I've visited new places during school holidays and weekends, most recently Hokkaido, Taiwan, Okinawa, and Kyushu. Upon returning to the workplace, I share my adventures with coworkers via souvenirs, photos, and enthusiastic storytelling. Recently, however, I've begun receiving a new and curious comment from both young and old peers, "Wow, you've seen more of Japan than even I have." On the surface, this remark seems benign – however, I feel it highlights an aspect of Japanese culture that I feel is too often shrugged at and dismissed with a disheartened "*shoganai*" – Japanese work culture.

As a foreigner, I have been afforded several privileges in the workplace: I'm not expected to work overtime, and I'm not expected to work on weekends. As great as working in Japan has been for me, I can't imagine it is as pleasant for the teachers I work with. When I ask them about their weekend plans, they tell me that all they want to do with their time outside of school activities is sleep. If you don't want to take my word for it, take a look around – on buses and trains, people young and old hold laptops or textbooks, their heads resting against a handrail or on the shoulder of the stranger beside them, exhausted from the grueling *gambare* they must carry out at all times. If the person reading this now has worked in Japan, I'm sure you've witnessed this.

Each time I call or text my family or friends in the U.S., I hear about suffering. People are plagued by low wages, gun violence, and health insurance woes that I was lucky to be free from when moving to Japan. I politely suggest how life-changing moving to Japan was for me – to leave my troubles behind, experience someplace new, and grow as a person. However, these suffering people often retort that even if lack of money, career obligations, and familial ties were not an obstacle, they simply wouldn't be willing to try living someplace else. It's this mindset that disserves people in both my home country and Japan alike – this unwillingness to hunt for a better life in favor of the stability they've got. Take it from someone who has done it: your best life could be around the corner or on the other side of the planet – it all starts with you.

なぜあなたは食べず嫌いをするのか？ 東近江市立船岡中学校

僕が日本で働き、住み続けて 5 年の間に、週末や長期休暇を利用して新しい場所に訪れてきました。最近では北海道、台湾、沖縄、九州に行きました。旅行から帰った後、職場ではおみやげや写真、楽しかった出来事を話すなどして、僕の冒険を同僚に伝えています。しかし最近では、若い方、年老いた方にかかわらず、奇妙で今までになかったコメントを受けるようになりました。「わあ、君は私よりもたくさん日本を見てきているね。」一見それは優しいコメントだと思えるでしょう。しかしその言葉は、僕の感覚ではありますが、多くの人が「しょうがない」と落胆するとともに問題解決から遠ざかり、肩をすくめている日本文化のとある側面、いわゆる日本の労働文化が表れているように感じるのです。

外国人として、職場では、僕にはさまざまな特権があります。例えば、定時時刻を超えての勤務や、週末に働くことが必要とされないことです。僕は日本で働くことは好ましいことだと感じていますが、一緒に働いている先生方もそのように考えているとは思えません。週末の予定を尋ねた時、もし学校から離れて過ごせるなら、一番したいことは寝ることだといいます。そのようなはずはないと思う方は、周りを見渡してみてください。バスや電車では、老若男女問わずパソコンや参考書を抱えており、頭は手すりか隣に座る見知らぬ客の肩にもたれています。何においてもやり抜かなければならない「がんばれ」という厳しい言葉に疲れ切っています。もしこれを読んでいる人が日本で働く方であれば、きっと目にしたことのある光景だと思います。

アメリカに住む家族や友人に電話やメールをすると、いつも彼らの苦しみ、不安について耳にします。低賃金や銃などの暴力、健康保険の苦境など、幸運にも僕が日本に引っ越してからは解放されることとなったものに彼らは脅かされているのです。トラブルから離れて、新しい場所で経験し、人間として成長するなど、日本への移住がいかに人生を一変させたのか、丁寧に提案しています。しかし、このように苦しんでいる人々は、お金がないことや、仕事の義務、親族のつながりが例え障害ではなくても、彼らはただ単に違う場所に住もうとしないだけだと言い返します。この考え方により、僕の母国も日本も同様に、人々はひどい仕打ちを受けているのです。彼らの手に入れた安定があるために、よりよい生活を探し出そうとしないのです。それを実行した僕の言葉を信じてください。あなたにとっての最高の暮らしはこの星の隅、もしくは反対側で見つかるのです。暮らしを変えるのはまずあなたから。翻訳 東近江市立船岡中学校 教諭 山脇早貴

Teaching Beyond Textbooks

Eigenji Junior High School: Czarah Jane J. Miranda

Teaching English in Japan is an interesting experience. As ALTs, a big part of our job is to make English more enjoyable and less intimidating for both the JTEs and the students. It's why I have always lobbied for the use of technology in classrooms. I'm not saying that the traditional way of teaching doesn't work. It's just that as an ALT, you must make optimum use of what your school has. They have tablets? Utilize them! Their tablets have access to the internet? Why, the possibilities are now endless!



This is when as a teacher, I then become a learner. I spend time watching animes that are popular and trendy to use them as the characters in my Kahoot! quizzes. This way, students who don't even like English stay alert and get excited when we have Kahoot! on the last 10-15 minutes of class. For Kahoot! winners, expect your students to go crazy for stickers. It's amazing how much more competitive and participative they get when you have cute cat stickers for positive reinforcement.

Outside of the classroom, it's a passive approach. Through technology, I'm able to make my own radio show, Eigo Radio, every month. I also decorate my English board by season using Canva. Both Eigo Radio and my English board allow everyone in my school to get a glimpse of English without boundaries and worrying about grammar. Not only do the students learn, but my co-workers too!

My goal has always been to teach English through subtle exposure. With all these tools and materials my school and I have, I look forward to what more I can offer my school with the aid of technology.

教科書だけでない英語指導

東近江市立永源寺中学校 ザラー・ジェイン・ミランダ

日本で英語を教えることは素晴らしい経験です。ALTとして、私たちの大きな仕事は英語をもっと楽しめるものにし、英語科の先生と生徒のどちらにとっても抵抗の少ないものにする事です。そのために、私は常に教室で ICT 機器の使用を行っています。従来の指導方法がうまくいかないと知っている訳ではありません。一人の ALT として、その学校がもつ最適な方法を行わないといけません。タブレットはありますか。なら、活用しましょう。タブレットはインターネットにつながっていますか。そうなら、可能性は無限大です。

私は、教師であると同時に学習者でもあります。Kahoot クイズのキャラクターに使うために人気で流行りのアニメを観ることに時間を費やしています。そうすることで、授業の最後の 10~15 分間に Kahoot を行う時には、英語が苦手な生徒たちでさえ授業に注目し、夢中になっています。Kahoot の勝者は、ご褒美のシールに夢中になるでしょう。生徒を前向きにさせる方法として可愛い猫のシールを用意したとき、生徒の競争的で意欲的に参加する姿は素晴らしいです。

教室の外では、生徒が自分から英語を学べるアプローチを行っています。その一つとして、ICT 機器を通じて、私自身のラジオ番組である「Eigo Radio」を毎月作成しています。また、掲示板に季節ごとに「English Board」に掲示物を飾り付けています。「Eigo Radio」も「English Board」もどちらも学校のみんなが文法の心配や壁を感じずに英語に触れる機会をつくっています。生徒だけでなく、教職員の皆さんに関しても同様です。

私の目標は、気づかぬうちに英語を学んでもらうことです。学校にあるあらゆるツールや材料を駆使し、ICT 機器を使ってもっとたくさんの方を学校に提供していきたいです。

(翻訳 東近江市立永源寺中学校 中谷 洋)

Shiga, My Home Away From Home Seitoku Junior High School: Dominique DiGiacomo

3

It had always been my dream to move to Japan and teach English. When I received the acceptance letter from the JET Program, I was ecstatic. Then I received my placement, Higashiomi Shiga. My first thoughts were, where is Shiga? I had always imagined myself teaching in a city like Tokyo or Osaka, so my initial reaction, while excited, was also nervousness. I wasn't sure what to expect of Shiga. All I knew was that Japan's biggest lake, Lake Biwa, was close by. Other than that, I came here not knowing what would be waiting for me in the countryside of Japan.



After getting here, all of my nerves melted away. I hadn't thought that I would be able to call somewhere so far away from home my second home within weeks of getting here. In the beautiful prefecture of Shiga, I fell in love with so many things. I began to quickly fall in love with the view of being surrounded by mountains every morning, the fresh countryside air, and the welcoming community of my little town of Higashiomi. I quickly made friends with my fellow ALTs, coworkers at Seitoku, and even random members of the community. One day I was coming home from a trip during a typhoon and just when I thought all hopes were lost as I got stuck in Kyoto with no train, I met a Japanese woman in her 70s who happened to live in a town neighboring to Higashiomi. Even with the language barrier as she speaks absolutely no English, she helped me that day, driving me all the way past her house to my home in the middle of a typhoon. And would you believe it that we've become best friends? I've been adopted into her family as well as the families of my coworkers who treat me as a daughter and a younger sister.

Shiga was not my first choice, but it quickly became my favorite place. In the countryside, surrounded by mountains thousands of miles away from my home in America, I found my second home. Every day I wake up grateful to be where I am with a wonderful community surrounding me. I can't wait to discover more of Shiga, my home away from home.

滋賀県、もうひとつのふるさと

東近江市立聖徳中学校 ドミニク・ダイジャコモ

日本で英語を教えることはずっと私の夢でした。JET プログラムの合格通知をもらったとき、とてもうれしかったです。後に、私の配属先が滋賀県東近江市だという通知を受け取りました。「滋賀県ってどこ？」これが最初の印象です。日本というと東京や大阪といったイメージだったので、知らない土地で教えることが楽しみでもあり、とても緊張することでもありました。滋賀県には何があるのかわかりませんでした。ひとつ知っていたのは、滋賀県には日本一大きい湖、琵琶湖があるということだけでした。ほかは全然知らない中、東近江市に引っ越ししました。

引っ越しの後、私の緊張はなくなりました。わずか一週間ほどで、アメリカから本当に遠い場所が自分のふるさとと言えるなんて思ってもいませんでした。美しい滋賀県で色々な事に心を奪われました。山々に囲まれた景色や田舎の新鮮な空気、小さな町、東近江のあたたかいコミュニティがすぐに大好きになりました。すぐに他のALTや聖徳中学校の同僚、町の人々と友だちになりました。ある日、旅行からの帰り、台風で電車がすべて京都で止まってしまいました。どうしたらいいのかわからないと絶望していると、東近江市の隣に住んでいる70歳ぐらい日本人のおばあさんに出会いました。彼女は英語が話せず、言葉の壁がありました。しかし、彼女は台風の中、車を運転し、私を家に連れて帰ってくれました。それから私たちが親友になったなんて信じられますか？私を自分の娘や妹のように仲良くしてくれる同僚と同じように、あのおばあさんは私を家族のように扱ってくれたのです。

滋賀県は私の第一希望じゃなかったけれど、お気に入りの場所になりました。アメリカの私の家から何千マイルも離れた山々に囲まれた田舎で、私の第2のふるさとを見つけました。毎朝目が覚めると、とても素敵なコミュニティに囲まれ過ごしていることに喜びを感じます。もうひとつのふるさと、滋賀県の魅力をもっと知りたいです。

(訳 東近江市立聖徳中学校 教諭 梅本 亜佑子)

Challenges and Discoveries: Life in a New Country Notogawa Junior High School: Jack Long

3

Since coming to Japan in January, I have had many new life changing experiences while adapting to life here in Shiga. From the beautiful Lake Biwa to the historical Hikone castle, there are many things to see in Shiga.

The most famous symbol of Shiga prefecture, of course, is Lake Biwa. When I first got here, I knew that I wanted to see Lake Biwa as soon as it got warm enough. When it finally did, I decided to walk there instead of taking a bus. This took several hours, and left me very tired, but it gave me a chance to see Shiga with my own eyes. Everything looked different from what I was used to back home, especially the houses. When I finally made it to Lake Biwa, I was met with one of the most beautiful views I have ever seen in my life. I also took a trip to Hikone Castle. It was amazing, and being able to see the inside of such an old castle was very fascinating. There are still many places in Shiga that I have yet to visit and many famous things in Shiga that I have yet to experience. For example, I haven't been to Ōtsu yet and I haven't eaten funa-zushi yet. I am looking forward to what my future holds living here in Shiga.



Of course, moving to a new country is not easy, and comes with many challenges. Whether it be the language, differences in culture, or even the food, there are many things that I must adapt to. It was very difficult at first, but everyone has been very supportive. The people of Shiga are very welcoming, and adapting to Japan would be much more difficult without their help. Many people here are very curious about America and about the English language, and I find great joy in being able to share my culture with everyone. The biggest challenge with moving to a new country, however, is not being able to see my family in America. I miss them a lot, but they are very excited for me, and they love hearing about my life in Japan and seeing pictures of all the beautiful views that I find around Shiga. So far life in Shiga has been a wonderful and enriching experience, and it has given me the opportunity to learn a lot about Japan and about myself. There is still so much in store for me in the future and I am excited to be able to share American culture and the English language with the people of this beautiful prefecture.

挑戦と発見:新しい国での生活

東近江市立能登川中学校 : ジャック・ロング

1月に日本に来て以来、ここ滋賀での生活に適応しながら、多くの新しい人生を変える経験をしました。美しい琵琶湖から歴史ある彦根城など滋賀には見どころがたくさんあります。滋賀県の最も有名な所はもちろん琵琶湖です。初めてここに来たとき、暖かくなったらすぐに見たいと思っていました。ようやく暖かくなってきて、私はバスに乗らずに歩いていくことにしました。これには数時間かかり、とても疲れましたが、自分の目で滋賀を見る機会を与えてくれました。すべて私が故郷で見てきたものとは違いました。特に住宅の造りは異なっていました。ようやく琵琶湖にたどり着いたとき、私は今まで見た中で最も美しい景色の1つに出会いました。彦根城にも行きました。すごかったし、こんな古いお城の中が見えてとても魅力的でした。滋賀にはまだまだ行ったことのない場所がたくさんあり、滋賀にはまだ体験していない有名なものがたくさんあります。たとえば、私はまだ大津に行ったことがなく、鮒ずしもまだ食べていません。これからの滋賀での生活が楽しみです。

もちろん、新しい国への移住は容易ではなく、多くの課題が伴います。言葉、文化の違い、食べ物でも、適応しなければならないことがたくさんあります。最初はとても大変でしたが、みんなとても協力的でした。滋賀の人々はとても歓迎してくれて、彼らの助けがなければ日本に適応することはもっと難しかったと思います。ここに住む人達はアメリカと英語に非常に興味があり、私は自分の文化をみんなと共有できることに大きな喜びを感じています。しかし、外国で暮らす最大の悩みは、故郷にいる家族に会えないことです。とても寂しいですが、家族はとても僕の生活に興味を持ち、日本での私の生活について話を聞いたり、滋賀周辺の美しい景色の写真を見たりするのが大好きです。これまでの滋賀での生活は素晴らしく豊かな経験であり、自分自身、多くの学ぶ機会を与えてくれました。これからも色々なことに出会い、この美しい県の人々とアメリカの文化や英語を共有できることに心躍らせています。

翻訳 東近江市立能登川中学校 教諭 生駒 高栄

Stamping Moments: a Personal Reflection on Goshuin-cho Aito Junior High School: Raisa Dominique G. Perez

In the quiet embrace of sacred places, where time converges with spirituality, the Goshuin-cho becomes a testament to my journey. Here I collect the essence of profound encounters.

Visiting temples and shrines has been a common practice in Japanese culture. Every shrine or temple has its own unique calligraphic seal that is stamped onto a notebook. This is the practice of Goshuin-cho.

It has been two months since I started doing my Goshuin-cho journey. Yet collecting these seals inspired me to live a mindful and intentional life. Here are the 3C's of my Goshuin-cho takeaways. First is the *Connection to Tradition*. Goshuin-cho connects us to Japan's rich cultural and historical heritage. We are not just collecting goshuin, we are also collecting a piece of Japanese history and culture. This allows us to preserve a sense of continuity with the past. Next is the *Commemoration and Reflection*. Goshuin-cho enables us to reflect on the places we have been and the experiences we have had. Each seal becomes a tangible memory, evoking a sense of gratitude, nostalgia, and personal growth as we look back on our journey. Last is the *Cultural Appreciation*. Goshuin-cho immerses us in the intricate expressions of the Japanese culture. The beautifully crafted seals showcase the artistry of the monk or shrine attendant.

Indeed, the goshuin-cho provides a sense of reverence and mindfulness for both the spiritual realm and Japanese culture. It creates a personal keepsake that embodies a journey filled with beauty, wisdom, and art. As I continue my goshuin-cho journey, may it guide me to a deeper appreciation and respect for life's varying traditions and beliefs.

想い出を心に刻んで：御朱印帳への思い 愛東中学校：ライサドミニクガルシアペレツ

神聖な場所の静かな抱擁の中で、時間と精神性が交わる場所、御朱印帳は私の旅の証言となります。ここで私は、深い出会いのエッセンスを収集します。日本の文化では、寺院や神社を訪れるのが一般的です。すべての神社や寺院には、独特の書道の印章があり、ノートに押されます。これが御朱印帳の習慣です。

御朱印帳の旅を始めてから2か月が経ちました。しかし、これらの印章を集めることは、私に注意深く意図的な人生を送るインスピレーションを与えてくれました。私の御朱印帳の学びの3つのCは次のとおりです。1つ目は伝統へのつながりです。御朱印帳は、私たちが日本の豊かな文化的および歴史的遺産につなげてくれます。私たちは、御朱印を収集しているだけではありません。日本の歴史と文化の一部も収集しています。これにより、過去との連続性を保つことができます。2つ目は記念と回想です。御朱印帳は、私が訪れた場所や経験を振り返ることができるようにします。それぞれの印章は、感謝、ノスタルジー、そして個人的な成長の感情を呼び起こし、旅を振り返るたびに目に見える思い出になります。3つ目は文化的理解です。御朱印帳は私を日本の文化の複雑な表現に浸してくれます。美しく作られた印章は、僧侶や神社係員の芸術性を示しています。

確かに、御朱印帳は精神的な領域と日本の文化の両方に敬意と注意深さを与えてくれます。それは美しさ、知恵、芸術に満ちた旅を体現する個人的な記念品を作り出します。御朱印帳の旅を続ける間、それは私に人生の多様な伝統と信念へのより深い理解と尊敬を導いてくれることを願っています。(訳[愛東中学校：黒川千里])



Shiga, My Home

Tamazono Junior High School: Rhianna R Velasquez

I've lived in Shiga for five years. I came here with little knowledge of life in Japan. I had never taught before and I certainly had never had to deal with daily life in another language. But the people around me helped me navigate my new environment. They welcomed me into the school, supported me as I grew my skills, and helped me to keep going when everything felt like it was too much.



Another group of people that helped me were the other ALTs in my town. We created a close group that allowed us to depend on each other. To celebrate the holidays with. It helped us feel not alone. I could talk to them about my struggles and get advice. I could listen to their issues and give my own feedback. During my lonliest time, I was able to turn to them, regain my strength, and keep pushing forward.

From both my school and my ALT community I've had to say goodbye to people who were very dear to me but the bonds we made while working together were strong enough to withstand separation. I grew and am now the one helping others navigate their way through the challenges they face.

If I had been alone during these five years, I believe I could have made it through, albeit with a bit of a struggle. But I wasn't alone. My community helped make Shiga more than just a place I live. They made Shiga my home.

滋賀、私の家庭

玉園中学校： リアーナ・アル・ベラスケス

滋賀で暮らして5年になった。日本での生活についてほんの少しだけの知識をもって、5年前、ここ東近江市に来た。それまでは教えるということをしたことはなく、そして英語ではない言語を使って日常生活を送らないといけないことなんて、なかった。でも周りの人たちは私のことをサポートしてくれ日本での生活を助けてくれた。玉園中学校の職員のみんなは歓迎してくれ、ALTとしての技能が高められるようにサポートをしてくれ、十分すぎるほど何に関しても上手くいくように助けてくれた。

中学校以外で私を助けてくれたのが、東近江市で働く他のALTたちだ。私たちはお互いが助け合えるグループを作った。休暇をともに祝うことなどを通し、私たちは孤独ではないと感ずることができた。このグループでは、自分の抱えていた相談や悩みごとを話すことができ、アドバイスをもらうこともできた。また、他のALTの相談や悩みごとを聞き、自分なりのアドバイスをすることもできた。孤独な時は、彼らの元へ駆けつけ、強さを取り戻し、前に進むことができた。

この夏、私は、玉園中学校とALTの仲間の両方という私にとっての親愛なるメンバーに「さようなら」を言わないといけない。でも、共に働いてきたことで培ったこの絆は何よりも強く、離れ離れになっても耐えられるほどだ。私は成長し、今では困っている人たちを手助けすることもできるようになった。

もしもこの5年間に孤独だったら、困難や苦労と共にこのJETプログラムを終えただろう。でもこの5年間、私は孤独ではなかった。この5年で作り上げたコミュニティーは「滋賀」というこの場所を「ただ住んでいる以上の場所」にしてくれた。私を取り囲むすべてのものが滋賀を私の家庭にしてくれた。

(訳 東近江市立玉園中学校 教諭 森 朋子)

The Importance of Language in the Classroom

1

KOTO JUNIOR HIGH SCHOOL: Vincent Francis Favata

Throughout the 2020's, humanity has faced several major challenges such as COVID-19 and a computer chip crisis. An emphasis on intercultural communication and collaboration allowed us to overcome and mitigate these issues. As a teacher in Shiga, I am proud to utilize these concepts as an ALT.



The benefits of language learning go beyond the ability to speak, read, and write in another language. Throughout my background in Linguistic Education, I learned that effective language learning also facilitates benefits such as collaboration and the ability to formulate thoughts outside of one's language and culture.

The world after the introduction of the COVID-19 epitomizes the importance of a multi-cultural world. The research teams and policy makers that have brought us a sense of normalcy were thanks to people of various ethnicities and backgrounds working towards a common goal. Present times show that countries must be willing and able to communicate with others to synthesize information and progress in ways that have yet been imagined.

Each day I present my language and culture in fun ways—enticing students to learn English and of a culture abroad. Buried beneath fun games and funny photos is an attempt at cultural-linguistic exchange. This exchange is shared back through student's smiles and communication within the classroom. I couldn't be happier to be an ALT at Shiga.

教室での言語の重要性

東近江市立湖東中学校：ヴィンセント・フランシス・ファヴァタ

2020年代を通じて、人類はCOVID-19やコンピューターチップの危機など、いくつかの大きな課題に直面しました。しかし、異文化コミュニケーションや人々との協力を重視することで、これらの問題を克服し、軽減することができたように思います。滋賀の教師として、またALTとして、これらのコンセプトを活用できることを誇りに思います。

言語学習の長所は、他言語で話したり、読んだり、書いたりする能力が身につくだけではありません。言語教育学を専攻していた私は、効果的な言語学習は、他者と協働する力や、自分の言語や文化にとらわれない思考を形成する能力といった良さをももたらすことを知りました。

COVID-19が広まった世界は、多文化共生社会の重要性を象徴しています。さまざまな背景を持つ人々が、共通の目標に向かって努力したこと、また私たちに平穏な生活をもたらしてくれた研究チームや政策担当者たちに感謝します。現代は、各国が情報を統合し、想像できないような方法で進歩するために、他者とコミュニケーションをとる意思と能力が必要であることを示しています。

私は毎日、自分の言語と文化を楽しく紹介し、生徒たちに英語と海外の文化を学んでもらうようにしています。楽しいゲームや面白い写真には、文化と言語の交流の試みが隠されています。この交流は、生徒の笑顔や教室内でのコミュニケーションを通じて、再び共有されるのです。滋賀のALTになれて、これほど嬉しいことはありません。

(訳 東近江市立湖東中学校 教諭 安田真莉菜)

Koka Junior High School: Cameron Stuart Hart

Let me take you back. In 2019, a young JET rides a shinkansen ready to start a new adventure in the land of the rising sun. I wish I could say he was fresh-faced and ready for anything, but that wouldn't be entirely true. He was a severely jet-lagged JET, anxious and uncertain of what the future would hold, trying his best not to melt in the summer heat. He didn't even go to his University graduation.



Flash-forward four years, that same jet-lagged JET looks up at same shinkansen track in the midst of a grueling rugby game. I wish I could say he and his team won the game, but that wouldn't be true either. With what seemed like some of the biggest rugby players from Kyoto, the somewhat smaller (and only!) Shiga team were trampled over all game. Paired with the disgustingly humid air, which felt like being repeatedly hit in the face with a wet towel, it was certainly not a fun day at the office. FT: 29-5.

As with all things, not all games go your way. You win some, you lose some.

That said, that JET would have many great things to look back on over the last four years. Winning the Kinki rugby league with Lakeside RFC, getting a Japanese motorcycle license and even acting in an NHK morning drama. The people, the places and the food have been pretty awesome along the way for him too. One lost rugby game won't change that for that once Jet-lagged JET.

時差ぼけ JET(外国語指導助手)の旅

甲賀市立甲賀中学校 キャメロン・スチュアート・ハート

話はさかのぼる。2019年、若いJETは新幹線に乗り日本での新しい冒険の準備を開始していた。彼は新人で何でも準備ができていただろうが、完璧ではなかった。彼は時差ぼけがひどく、将来どうなるか不安であり、夏の暑さに溶けないようにがんばろうとしていた。彼は大学の卒業式にも行かなかった。

4年間で瞬く間に過ぎ、時差ぼけがある彼は過酷なラグビーの試合の最中に新幹線で考えていたことを参照していた。彼のチームが勝つと言いたところだが、本当ではないだろう。京都の最も大きなラグビー選手のように見えたが、やや小柄な選手であった。滋賀のチームは全試合踏みつぶされた。濡れたタオルで顔を何度も殴られたような嫌なほど湿気の多い空気と相まって、決して楽しいものではなかった。試合の点数は29対5であった。

すべてのことと同様に、すべてのゲームが思い通りにいくわけではない。勝つこともあれば負けることもある。でもJETには過去4年間を振り返ると素晴らしいことがたくさんある。レイクサイドRFCで近畿ラグビーリーグ優勝、日本の自動二輪免許取得、NHK朝ドラに出演したことである。彼にとって旅の途中で出会った人々、場所、食べ物はとても素晴らしいものであった。ラグビーの試合で一回負けたとしてもかつての良い経験とは変えられないものである。

The People of Shiga Life in Shiga Tsuchiyama Junior High School: Cheyenne Price

My grand adventure in Japan began when I stepped into my new apartment on my first day in Shiga.

The school nurse from my base school happened to live in the same apartment as me and saw my arrival, excitedly greeting me with smiles and laughter, expressing that she wanted to learn English. She helped me at the grocery store, pointing out different foods I should try, and we ate store bought yakitori together on the floor of my apartment my first night there. Before I had a car, we would walk the mile to school together in the mornings. On Mondays we would have a language exchange dinner, which consisted of making food and speaking in English and Japanese. Our conversations with one another ranged from likes and dislikes to practices within our respective cultures. Others would join us from time to time, bringing food and joining in on the discussions, a good chance for speaking practice. The room was always filled with laughter.

Shiga is filled with an abundance of kind people. While at times life could feel overwhelming, especially with a language barrier, the kindness of those willing to reach out was what made me feel at home. I had worked with children in America before, but this was my first time as an assistant language teacher. I worried I would do something wrong or make a bad impression. The English teachers I worked with were so amazingly kind and patient with me as I learned the ropes. My first supervisor gave me a set of chopsticks that I still use every day at lunch. They helped me relax, to take it one step at a time and I learned so much from the way they taught as well. I'm so grateful to my teachers, for taking on the student in me as well.

When I think about my life in Shiga, I think about how lucky I was to meet people who so genuinely cared about knowing me. The foods I had never experienced, the festivals and places I had never seen, the way seasons feel; all of these are a part of my experience in Shiga as well. But it is the people that make a place. I often consider how lonely I would have been had I not had such a welcoming community to help me understand and adjust to life in a country that was half a world away from my family. And for that, I'm eternally grateful.

滋賀県の人、滋賀県での生活

翻訳 甲賀市立土山中学校 教諭 藤澤 光汰

私の日本での壮大な冒険は、滋賀に来た初日に新しいアパートに足を踏み入れたときから始まりました。

たまたま同じアパートに住んでいた、勤務先の養護教諭が私の到着を見て、にこにこ微笑み、興奮しながらあいさつをし、英語を学びたいと言ってくれました。スーパーでは、色々な食べ物を教えてくれたり、初日の夜は、アパートで一緒に買った焼き鳥を食べたりしました。私が車を持つ前は、朝、学校まで1マイルを一緒に歩いていました。月曜日には、言語交換の夕食会があり、料理を作り、英語と日本語で会話をしました。お互いの好き嫌いの話から、それぞれの文化での習慣まで、さまざまな話をしました。ときどき、他の参加者が食べ物を持ち寄り、議論に加わるので、スピーキングの練習になります。部屋はいつも笑いに満ち溢れていました。

滋賀には親切な人がたくさんいます。特に言語の壁があり、生活に圧倒されることもありましたが、手を差し伸べてくれる人たちの優しさが、私の心を和ませてくれました。アメリカで子どもたちと接したことはありましたが、ALTは初めてでした。何か悪いことをしたり、悪い印象を与えたりしないか心配でした。一緒に働いていた英語の先生たちはとても親切で、私がノウハウを学ぶのに忍耐強く接してくれました。最初の上司がくれたお箸は、今でもランチの時に使っています。また、先生方の教え方からも多くのことを学びました。生徒と同じように受け入れてくれた先生方には、本当に感謝しています。

滋賀での生活を振り返ってみると、純粋に私のことを知ろうとしてくれる人たちに出会えたことは、とても幸運だったと思います。食べたことのない食べ物、見たことのない祭りや場所、季節の感じ方、それらすべてが私の滋賀での体験の一部です。しかし、場所を作るのは人です。家族から地球の裏側まで離れた国での生活を理解し、適応させるために、このように歓迎してくれるコミュニティーがなかったら、私はどんなに孤独だっただろうとよく考えます。そして、そのことに、私は永遠に感謝しています。

Filling your Cup

Shiroyama Junior High School: Lorin Davis

I have lived in Japan for five years now. That's half a decade. It's a little wild to think about. I am so grateful to my students and staff for everything they have done for me from their encouragement to teaching me some necessary hard lessons. I have been very lucky in my placement from JET.



This job, this experience is really what you put into it. If you want to truly be a part of your school, you have to work for it. One of my favorite Japanese dramas was a series called “Suppli” (サプリ) had a really great line that I still think about.

“Do you know the difference between a child and an adult? A child does only what they want to do. An adult does what they have to do.” (サプリ, Fuji TV 2006)

We are so often treated as special guests, as exceptions to the rule and in many ways we are. But we have to remember that we are also an invaluable member of a team. Choosing to be team player and learning how to support those around you is so important. Support means putting others first without always expecting a return. It means sharing the difficult load during the busiest times of the year. For me it sometimes meant longer nights and earlier days, but it was worth it. The more I proved myself to be reliable and trustworthy the more I was relied on and trusted. More and more I felt treated like a teacher and colleague. I am not just an ALT, I am a valued member of my school staff and my community. Over these five years I have found so often that pouring out my cup for others leads to my own cup being filled.

城山中学校：ローリン デイビス

日本に住んで5年が経ちます。10年のうちの半分と考えると長いですね。これまでのことを振り返ると少し不思議な感じがします。私は大事なことを教えてくれようとしてくれた自分の生徒、職員方に本当に感謝しています。そしてこの居場所をくれたJETにも本当に感謝しています。

この仕事、この経験は本当にあなたを夢中にさせるものです。もしあなたが心から学校の一員としてありたいのならば、あなたは学校のために尽くさなければなりません。私のお気に入りの日本のドラマのうちの一つに「サプリ」というシリーズのものが、私の心に今でも残っている言葉があります。

「あなたは子供と大人の違いが分かりますか？子供は自分がしたいものだけをするものです。けれど大人は、しなければいけないことをするのです。」(サプリ 2006 引用)

私たちはよく様々な場面で「お客さん」として扱われますが、私たちは学校を支える貴重なメンバーの一人であるということをおぼえておかなければなりません。チームとして自ら役割を考えて行動することと身の回りにある物事を支援する方法を学ぶことは大切です。「サポート」とは本来、見返りを求めず、他人を優先することです。それは1年のうち最も忙しい時期に起こる出来事かもしれません。それは、時には長い夜になることもあり、時には早朝まで続くこともありました。しかし、それもまた価値のあることなのです。自分自身が頼りになり、信頼に足る人物だと証明できればほど、より頼られるようにも信用されるようにもなります。私はだんだんと先生として、そして同僚として扱われるようになってきました。私はただのALTではありません。私は自分の学校やその集団の中で価値のある人間です。ここ5年間で他人のために自分の努力を注ぐことは結果として自分のためにもなっているということに気づくことが多々ありました。

(訳[甲賀市立城山中学校 福田晃大])

Should I Stay, or Should I Go?

3

Minakuchi Junior High School:

This is the big question everyone faces at least once during their time abroad. Going back will potentially allow you to reconnect with family and friends and have a sense of familiarity. On the other hand, staying allows you to strengthen your new language skills and have unique experiences. Both have ups and downs. There is no right answer. It seems to come down to how you look at it and what you want out of your future.

You could start by asking yourself some questions. Where is your heart right now? Is it in your home country or in your adopted country? At the end of the day, you may be happier where your heart lies instead of going where you are expected to be. What is your future dream and which country provides the best path to get there? Maybe you want to go home but the way to your goal lies in your adoptive country for now. Which way would you regret less? There is most likely no path with no regrets but there's possibly a path of less regret. No matter the outcome, it will be nice to be able to say that at least you tried.

I can ask these questions until my face turns blue, but in truth, I too am struggling with answering these questions. I wish there was a right answer but there isn't. I wish I could have it all but I can't. All I can do is take that first step, answer the question "Should I stay or should I go?" and let it unfold from there.

居るべきか、行くべきか

水口中学校:

外国にいる間、誰もが少なくとも一度は直面する大きな問題があります。あなたは戻ることで、再び家族や友達とつながり、親近感を持つことができるでしょう。一方、滞在することで、自分の新しい語学力を高め、独自の経験をすることができます。両者には良い点と悪い点があります。正しい答えは全くありません。どのようにそれを見るか、自分の将来に何がほしいか、結局このようなことになるように思われます。

自分自身にある問いかけをすることにより始められるでしょう。今、あなたのところはどこにありますか？あなたの故郷、または、あなたが住んでいる国にありますか？最後の日に、これから予定される場所に行く代わりに、あなたのところがこの場所にあるのなら、もっと幸せであるかも知れません。あなたの将来の夢は何で、どの国がその夢を実現する最良の道を与えてくれますか。多分、自分の国に戻りたいと思うでしょう。しかし、目的を実現させる方法は、今のところ、あなたが住んでいる国にあります。どちらの方法が後悔はより少ないでしょうか？十中八九、後悔の無い道はありませんが、後悔を少なくする道はある可能性があります。結果がどうであれ、少なくとも、あなたがトライしたと言えることは素敵なことでしょう。

私は自分の顔が青くなるまで、これらを問うことができるが、実のところ、これらの問いに答えることと闘ってもいる。正しい答えがあればいいのにと願うが、現在はない。私はその答えを持てればいいのに、ほとんどできない。できることはその最初の一步を進んで、「居るべきか、行くべきか」という問いに答え、そこから、それを広げるだけなのです。

(訳[水口中学校：福井隆之])

Caution; You Are Exiting the Comfort Zone

Konan Junior High School: Shelby Keiko Davis

“All growth starts at the end of your comfort zone.”- Tony Robbins

My first year living in Japan has surely been a year of growth. Just as this quote implies, it was also a year outside of my comfort zone. I didn't know what to expect before coming to Shiga, or Japan in general. I had never traveled to or studied abroad in Japan. Despite all of my language preparation and previous cultural knowledge, I felt nervous and arguably unprepared.



Thankfully my new friends and community helped me begin to acclimate to this new life in Shiga. I began to learn more about Shiga culturally and historically, and enjoyed many of its natural beauties. I toured Lake Biwa on the *Michigan*, went to Hikone castle, walked along the old Tokaido route, and rode the cable car up Hieizan to see the fall maple leaves. During winter I enjoyed many illuminations, including at Rosa and Berry. In spring I saw the beautiful cherry blossoms in Tsuchiyama and Shigaraki, climbed the Konze Alps, and Kayaked on Lake Biwa.

Although I was experiencing all of the scenery and activities Shiga has to offer, I wasn't challenging myself to exit the new comfort zone I had created with my friends. However, my perspective was changed entirely when the loss of my grandmother unexpectedly occurred in January. I realized that if I didn't challenge myself further, I might have regrets about how I spent my time in Shiga. Since then, I have begun to go alone to local shops, and do new activities by myself, such as karaoke. Doing these things alone have been the most challenging, yet rewarding tasks of my life. I feel more confident with every new thing I learn in my mistakes here.

I hope that my time living in Shiga inspires my students to step outside of their comfort zone in order to grow. I have come so far in my first year of living in Shiga, but I feel that my journey here has only just begun. I am ready for a new year of growth and experiences.

気を付けて！慣れ親しんだ場所で満足していない？

甲賀市立甲南中学校： シェルビー・けいこ・デイヴィス

「すべての成長は、コンフォートゾーンの先で始まる」トニー・ロビンズ

私の日本での最初の年はまさに成長の1年であった。この引用文にあるように、私のコンフォートゾーンの先にある1年でもあった。日本に、とりわけ滋賀に来るまでは、どのようなことに期待したらよいかもわからなかった。日本へ旅行に来たこともなければ、留学に来たこともなかった。日本語を学び、日本文化に対する知識もあらかじめ持っていたのだが、とても不安で、全然準備ができていないように感じていた。

幸い、新しくできた友達や周りの人たちのおかげで滋賀での新生活に次第に慣れていった。文化的にも歴史的にも滋賀への学びを深め、自然の美しさを楽しむようになっていった。琵琶湖でミシガンに乗ったり、彦根城へ行ったり、旧東海道の散策や、ロープウェイに乗り比叡山へ秋の紅葉を見に行ったりもした。冬にはローザンベリーをはじめとするイルミネーションをたくさん見に行っ。春には土山や信楽の桜を見に行き、金勝山に登り、琵琶湖でカヤックに乗った。

滋賀の景色や体験を知り尽くしたのだが、私は新たに友達と作った快適な空間から抜け出そうとはしていなかった。しかし、1月に起こった祖母との予期せぬ別れが私の考え方をがらりと変えたのだった。もしこれまでのように物事にチャレンジしなければ、滋賀で過ごす時間に後悔が残るかもしれないと気付いたのだ。それからは、地元の店に自分一人で行ったり、カラオケのような自分一人だけですることも始めた。一人でこれらのことを行うことは、私の人生の中で最も困難であり、そして同時にやりがいのあることだった。失敗の中から新たに学ぶことがあるたびに、自信を持てるようになっていった。

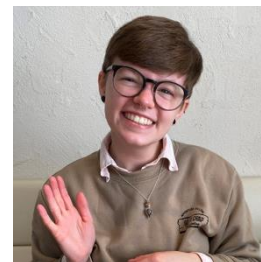
私の滋賀での生活が、生徒たちにとって慣れ親しんだ場所から抜け出して成長するための刺激になってほしいと思っている。滋賀で生活して1年が過ぎたが、私の人生の旅はまだ始まったばかりだ。これから始まる1年は、成長と経験に満ちた年にしたいと意気込んでいる。

(訳 甲賀市立甲南中学校 西田 千恵美)

It Takes a Village to Build a Community Shigaraki Junior High School: Sophie Nevel

2

In America, a very common saying is, “it takes a village to raise a child.” The saying isn’t always about raising children, though; it means that when people come together and support each other, we can do amazing things. When I think of my time in Shigaraki so far, I think one of the best things I can say is, “it takes a village to build a community.” The Japanese countryside is unlike anywhere else in the world; in Shiga, we can experience a very rich culture and abundant nature. I’m from Chicago, a big city in the United States, and my hometown couldn’t be more different from Shigaraki. Still, even though I came here less than two years ago, from across the world and with a very different perspective, I feel like I have become a part of the community here. Studying Japanese, especially Kansai-ben, has helped me to be confident in communicating with people. Now, I can say hello and have a conversation with friends of all ages around town: artists, farmers, construction workers, convenience store staff, teachers, students, and more – although, I try to only speak English with my students! My friendships in the community have allowed me to share some of my own culture, and experience so many unique parts of the Japanese countryside: roasting tea, making mochi, and enjoying local events like concerts, farmers’ markets, and the Shigaraki Fire Festival! Learning about the people here, and them learning from me, has made me feel so lucky to be here. I will do my best to continue learning and growing through cultural exchanges, and work hard to help build up my community!



コミュニティを構築するには村が必要です

信楽中学校:ソフィー・ネーベル

アメリカでは、「子供を育てるには村が必要だ」というのがよくあることわざです。しかし、このことわざは必ずしも子供たちを育てることではなく、人々が集まってお互いを支え合うとき、私たちは素晴らしいことをすることができることを意味します。これまでの信楽での時間を考えると、私が言える一番いいことの中には「コミュニティを作るには村が必要だ」という言葉があります。日本の田舎は世界の他のどことも異なります。滋賀県ではとても豊かな文化と豊かな自然を体験することができます。私はアメリカの大都市であるシカゴ出身で、私の故郷は信楽とこれ以上ないほど違います。それでも、私はここに来て2年も経っていませんが、それでも世界中から、全く異なる視点で、私はこのコミュニティの一員になったと感じています。日本語、特に関西弁を勉強することで、人とのコミュニケーションに自信が持てるようになりました。今では、アーティスト、農家、建設作業員、コンビニエンスストアのスタッフ、教師、学生など、町中のあらゆる年齢の友人と挨拶し、会話できますが、私は生徒とは英語だけを話すようにしています。コミュニティでの友情により、私は自分の文化を共有し、お茶の焙煎、餅作り、コンサート、ファーマーズマーケット、信楽火祭りなどの地元のイベントを楽しむなど、日本の田舎の多くのユニークな部分を体験することができます。ここの人々や私から学ぶ人々について学ぶことで、ここにいることをとても幸運に感じています。これからも文化交流を通じて学び、成長し続けるために努力を惜しまず、コミュニティを構築する手伝いができるよう頑張ります。

翻訳 甲賀市立信楽中学校 教諭 中津春

Full circle.

Soyo Junior High School: Anna Jones

It's been more than twenty years since I was an elementary school student eagerly waiting for our town's very first Assistant Language Teacher to arrive. All the way from Japan! Eight-year-old me was definitely not to know how much this would end up shaping my life.

Although I took more than a few detours (a lot more) on my journey to Japan, all have taught me a lesson in some way— good or bad. Fast forward to now and I am the 'new ALT'. I came to Japan with dreams of having the same impact I had, on just one student. Now when I hear students tell me they want to; study abroad, work for a global company, volunteer overseas, or even just the brief English conversations in the hallway, Anna from elementary school who had big dreams is very happy. Even after knowing that I would be showcasing New Zealand here in Maibara, I wasn't expecting to learn so much about not only our culture in New Zealand, but also myself. Turns out being a part of the Māori club at elementary school had led me to this moment — attempting a very awful poi (Māori word for "ball" on a cord) performance in front of the first-grade classes. Cultural lessons have included learning about sheep shearing and a 'kiwi Christmas' survival guide. I love getting to share all the parts of 'home' that are special to me, when I am so far away.



JET is so much more than teaching English. It's about the interactions in the mornings, biking to school with students. The after-school club activities, seeing students at the supermarket, and the daily reminders about how special these small communities are. I'm excited for another year of learning and growing — and the small moments that end up creating the best memories.

『振り出しに戻る』

双葉中学校：アナ・ジョーンズ

私が小学生だった頃、この町に初めての外国語指導助手 (Assistant Language Teacher) がやってくるのを心待ちにしていたのは、もう 20 年以上も前のことだ。はるばる日本から！8 歳の私は、このことが私の人生をどれほど大きく変えることになるのか、知る由もなかった。

日本への旅では、いくつかの回り道 (もっとたくさん) をしたが、そのすべてが、良い意味でも悪い意味でも、私に教訓を与えてくれた。早いもので、私は「新しい ALT」になった。たった一人の生徒に、私と同じような影響を与えることを夢見て日本に来た。「留学したい」「グローバル企業で働きたい」「海外ボランティアに参加したい」「廊下でちょっとした英会話をしたい」という生徒の声を聞いたときに、大きな夢を持っていた小学生のアナはとても喜んでいる。この米原市でニュージーランドを紹介することになるとわかっていても、ニュージーランドの文化だけでなく、自分自身のこともこんなに知ることになるとは思っていなかった。小学校でマオリ・クラブに所属していたことがきっかけで、1 年生のクラスの前でポイ (マオリ語で紐についたボール) を披露することになった。文化の授業では、羊の毛刈りや「キウイ・クリスマス」のサバイバル・ガイドを学んだ。遠く離れていても、私にとって特別な "故郷" のあらゆる部分を分かち合うことができるのは、とても楽しい。

JET は英語を教えるだけではありません。朝、生徒と一緒に自転車で通学したり、放課後の部活動を見学したり、スーパーマーケットで生徒を見かけたり、この小さな地域がいかに特別なものであるかを日々思い知らされる。私はまた 1 年学び、成長し、そして小さな瞬間が最高の思い出となることにわくわくしている。

翻訳 [双葉中学校 教諭 林 香織]

Elementary school

Suijo elementary school: Devante Smith

1

I have lived in Japan for six years. I will be leaving this summer. I have had many fun experiences in Japan. I really enjoy teaching elementary school students. In this last year, I was able to give the students many new experiences in English class. Not only related to English, but western culture as well. This last year has been very fun, and I am happy I have had the chance to teach at elementary school. I will never forget the memories I was able to make here.



小学校

春照小学校: デバンテ スミス

私は日本に 6 年間住んでいます。今年の夏に帰国する予定です。日本では楽しい経験をたくさんしました。小学生に教えるのはとても楽しいです。この 1 年は、英語の授業で子どもたちに新しい経験をたくさんさせてあげたと思います。英語だけでなく、西洋の文化も含めて。この 1 年間はとても楽しくて、小学校に来てよかったです。できた思い出を決して忘れないです。

(訳[春照小学校のデバンテ スミス])

My last year in Japan!

Okinaga and Sakata Elementary Schools: Joshi Philips

Maibara, Shiga has been my home for the last 6 years and I am very grateful for this opportunity. As I finish up my last couple of months here in Japan, I look back fondly on the many memories I have here. All the wonderful people I have worked with and everybody I have met while living here have all been so warm and welcoming. They have truly made my time here in Japan easier and very enjoyable for me. I would like to also say a big thanks to all the students I have taught over the years. I hope they have enjoyed our English lessons and have found an interest in learning not just English but learning in general. Just recently, I met some of my past students around town coincidentally and it's so good to see that they remember me and are doing so well. Some of my first junior high students are now in university, which seems so crazy to see how time flies. Good luck to the new bunch of ALT's, I'm sure you'll have a great time and thank you Japan!



息長小学校・坂田小学校：ジョシ フィリップス

『日本での最後の年』

滋賀県米原市に住んで6年が経ちますが、私はこの機会と巡り会えたことにとっても感謝しています。日本を離れるまで残り1, 2か月、私はここでの思い出を懐かしくふり返っています。私がここに住んでいる間、一緒に働いたり出会ったりした人は皆あたたかく、友好的で素晴らしい方々です。皆様のおかげで、私は日本で快適でとても楽しい時間を過ごせました。また、今まで英語を教えた子どもたちにもとても感謝しています。子どもたちが私達の英語の授業を楽しみ、英語だけでなく学習の中で何か興味のあるものを見つけられるよう願っています。つい最近、偶然近くの町で昔の教え子に出会いました。再会できてとても良かったですし、彼は私のことを覚えていてくれました。私が最初に教えた当時の中学生の中には、今大学生になっている生徒もいます。時間が経つのは恐ろしいほど早いものです。新しいALTの皆さんの今後の幸運を祈っています。皆さんはきっと、素敵な時間を過ごせると思います。ありがとう、日本！

訳〔息長・坂田小学校 竹本〕

Life in Shiga and New Zealand

Ohara Elementary School: Kaleb Thompson

By the way, I am not the camel, I am the person smiling on the left. It has been a year and a half since I arrived in Shiga, and I am still enjoying this beautiful natural landscape. During this year I have been picking tulips with local farmers, going to zoos, hiking trips and studying for the JLPT N1, the hardest Japanese level. My test is 2 weeks away and I'm unsure if I will pass or not



but the important thing is that I am constantly improving and pushing myself out of my comfort zone. Outside of study and travel, I have been thinking a lot about life in New Zealand.

A lot of my close friends are getting married, some are having children and some are buying their first house. My younger brother and sister started JHS this year. And my older brother just became an English teacher at a University in Chile. Seeing these things makes me miss my friends and family more than ever. But during these moments I like to remember that we are all writing our own life stories. My friends and family are making a difference in their lives, while at the same time we are making a difference in the students' lives. No matter how small the difference, I am always grateful that to have the opportunity to teach and live in this beautiful country filled with kind and compassionate people.

滋賀とニュージーランドの生活

大原小学校：ケイリブ トンプソン

ところで、私はラクダではなく、左で笑っている人ですよ。滋賀に来てから1年半が経ちますが、今でもこの美しい自然の風景を楽しんでいます。この1年間は、農家の方とチューリップを摘んだり、動物園とハイキングに出かけたり、日本語能力試験 N1 の勉強をしたりしてきました。試験は2週間後に迫っており、合格するかどうかは分かりませんが、重要なことは私が毎日日本語を勉強して、自分を追い込むようにしています。勉強や旅行以外では最近、ニュージーランドでの生活について考えることが多くなりました。

私の親しい友人の多くが結婚し、子供が生まれ、最初の家を購入しました。私の弟と妹は今年から JHS に入りました。そして、兄はチリの大学で英語の先生になったばかりです。このようなことを見ると、友人や家族に会いたくなります。でも、そんな時、私たちは皆それぞれに、「自分の人生の物語を書いているのだ」ということを心に留めておきたいと思います。私の友人や家族には、人生の転機ともいべき変化がもたらされ、その一方で、同時に、私たちは日々、生徒たちの人生に新たな変化をもたらしています。それがどんなに小さな変化であっても、親切で思いやりのある人たちが住むこの国で、教える機会を与えられた事に感謝しています。

(訳 [原小学校：ケイリブ トンプソン])

Thank you and Goodbye

Maibara Elementary School:

1

In two months, I will be completing my five years with JET programme. I have always enjoyed teaching English in Japanese schools even though these past couple of years has been a little bit challenging because of Covid-19. I am truly grateful for all the wonderful memories.

Overall, my teaching experience in Japan has been great. I am leaving Shiga with a lot of wonderful memories that I will surely cherish forever.

ありがとうとさよなら

日本で教えること

米原小学校:

あと 2ヶ月で 5 年間の JET プログラムが終了します。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響で少し大変ではありましたが、私は日本の学校で英語を教えることをいつも楽しんでいきます。全ての素晴らしい思い出に本当に感謝しています。

全体的に私の日本での教育経験は素晴らしいものとなっています。私は滋賀での素晴らしい思い出を忘れません。さよなら。

Teaching - Selfless or Selfish?

1

Imazu Junior High School:

I have been teaching for 7 years now, both in Australia and in Japan. Many things are different, however there is one key similarity. “Teaching is a selfless job.” I want to start by saying that I don’t disagree with this idea. I know teachers give a lot to their students, but I do not believe that it is purely selflessness that motivates me.

In my first year of university, my lecturer told us that one of the best moments in teaching is seeing the moment when a student understands. That “Aha!” moment. She always said that that moment made all the hardships worth it.

That’s the moment I teach for. I love seeing my students faces light up with understanding, how happy they look when they succeed. Everything I do is for that. All the hints, the gestures, the bad Japanese, the easy English, the pictures and countless other tips and tricks, everything for that moment. And it is that moment that makes me feel like I am doing a good job.

It is for that reason I think teaching is a little selfish. I teach because seeing my students triumph makes me feel good. It is that selfish desire to continue to see that moment that keeps me motivated in being a teacher.

教えていること — 他者のためか、自分のためか？

高島市立今津中学校

今まで、オーストラリアと日本で7年間ずっと教員をしています。オーストラリアと日本では異なることがたくさんありますが、大切な同じポイントが一つあります。“教えることは他者のための仕事です”。その意見には賛成します。本当に教員は、生徒のために色々なことをしています。しかし、私にとって、そのことだけが教員を続ける動機ではありません。

大学生一年生の時、先生に“教員が教えている時の一番良い瞬間は、生徒が理解したという瞬間を見た時です”ということをお教わりました。「なるほど」という顔をした瞬間です。その先生はいつも“教員の仕事は大変ですが、子どもが「わかった」という瞬間を見た時、幸せな気持ちになる”とっておられました。

私はその瞬間を見るために教えています。生徒が理解した時の顔を見るのが好きです。生徒に与えたヒントやジェスチャーや、私の上手じゃない日本語や簡単な英語や写真など全て、生徒が理解するその瞬間のために提示しています。そして、その瞬間を見ると頑張ったという気持ちになります。

そのような理由から、教えることはやや自己満足のように思えます。しかし、生徒の成長を見るために教えていきたいです。いつまでもその気持ちを感じられるように、教員の仕事をこれからも続けていきたいです。

翻訳 高島市立今津中学 ALT

What Makes Japan So Special?

3

Ado Elementary School: Na-Kaydia Webb

“What makes Japan so special?” I once typed this question in Google. The answer that came back was: *“Japan’s architecture, art, traditions, crafts. Also, its worldwide known pop culture (including manga, anime, and video games).”* The answer is a common one. It is an expected one. However, I disagree. If you were to ask me “What makes Japan so special?” I would reply with two words: *the people*.

It is the people of Japan that contribute to its’ architecture, art, traditions, crafts, and pop culture. When I leave this country, yes, I will miss its’ beauty, but more than that, I will miss the people. I will miss my students, both past and present. The ones that hide from me in the supermarkets out of shyness and the ones that are bold enough to yell my name from across the street. I will miss going to music concerts with my Japanese friends. I’ll miss having dinner and talking to my “Japanese family” about any and everything, teaching them Jamaican dances and going shopping with them.

I will miss my co-workers because I do believe that I have taught at great schools and worked with great colleagues. I will miss my Japanese language teacher and her neighbors who always greet me with a smile. As my time in Japan slowly comes to an end, I will do my best to make more memories. I will do my best to spend time with the people of this wonderful country that I have lived in for four years. I will treasure the time I have left here, for sadly, I cannot take the people back home with me, but I can take treasured memories and the life-long lessons I have learned.

From my time in Japan, I will forever be thankful for...the people.



日本の魅力は何か？

高島市立安曇小学校 ナケイディア・ウェブ

“日本の魅力は何か？”この質問を Google で入力したことがある。返ってきた答えは、こうだった：「日本の建築物、芸術、伝統、工芸品。また、世界的に有名なポップカルチャー（マンガ、アニメ、ビデオゲームなど）」。この答えは、一般的なものだ。予想通りの答えである。だが、私はそうは思わない。もし、あなたが私に “日本の魅力は何かと？”と尋ねたら、私は2語でこう答えるだろう。“The people”それは、“人々だ”と。

日本の建築、芸術、伝統、工芸、そしてポップカルチャーに貢献しているのは、日本の人々だ。私がこの国を去るとき、確かにその美しさが恋しくなるだろうが、それ以上に、人々が恋しくなるだろう。過去も現在も、私の生徒たちが恋しくなるだろう。スーパーマーケットで恥ずかしがって私に隠れていた生徒や、通りの向こうから私の名前を叫ぶほど大胆な生徒も。日本人の友人とコンサートに行くことを恋しがらるだろう。“日本の家族”と夕食を共にし、何でも話したりジャマイカのダンスを教えたり、一緒に買い物に行ったりするのが恋しくなるだろう。

素晴らしい学校で教え、素晴らしい同僚と一緒に働いたので、同僚がいなくなるのは寂しい。いつも笑顔で迎えてくれる日本語の先生とそこ近所さんにも会えなくなる。日本での生活が徐々に終わりに近づいているが、私はより多くの思い出を作るためにベストを尽くしたいと思う。4年間暮らしたこの素晴らしい国の人たちと過ごす時間を大切にするために、できるだけ思い出を作ろうと思う。悲しいことに、私の故郷に出会った人たちを連れて帰ることはできないが、大切な思い出と私が学んだ生涯にわたる教訓は持って帰ることができる。

日本での生活から、私は関わってくれた人々に永遠に感謝し続けるだろう。

翻訳 高島市立本庄小学校 講師 村田恵理子